

「平成21年度普及に移す成果」

3月下旬播種「コシヒカリ」不耕起乾田直播栽培技術

農業総合センター農業研究所

不耕起乾田直播栽培では、規模拡大を図るため、播種作業が分散できる早期播種技術の確立が求められています。そこで、「コシヒカリ」の3月下旬播種における適正な播種量と施肥量を明らかにしました。

1. 播種量・施肥量は4月中旬播種と同量～やや多めに

3月下旬播種は、4月中旬播種と比較して気温の低い時期に出芽します。そのため、出芽までの日数が長くなり、苗立数が低下するリスクが高まります。そこで、苗立数確保のため、播種量は4月中旬播種と同量からやや多めにします。肥料は4月中旬播種と同じLP70:LPSS100:LPS120=6:2:2の専用配合肥料(受注一括生産)を用います。生育期間が長くなるため、窒素施肥量は4月中旬播種と同量からやや多めにします。このことにより、4月中旬播種と比べて遜色のない収量・品質が確保できます。

播種時期別の播種量と施肥量

播種時期	播種量	施肥組成	施肥量()
3月下旬	6～8kg/10a	LP70:LPSS100:LPS120=6:2:2	10～20%減肥
4月中旬	5～7kg/10a		20～40%減肥

() 移植栽培の合計窒素量(基肥+穂肥)からの減肥率

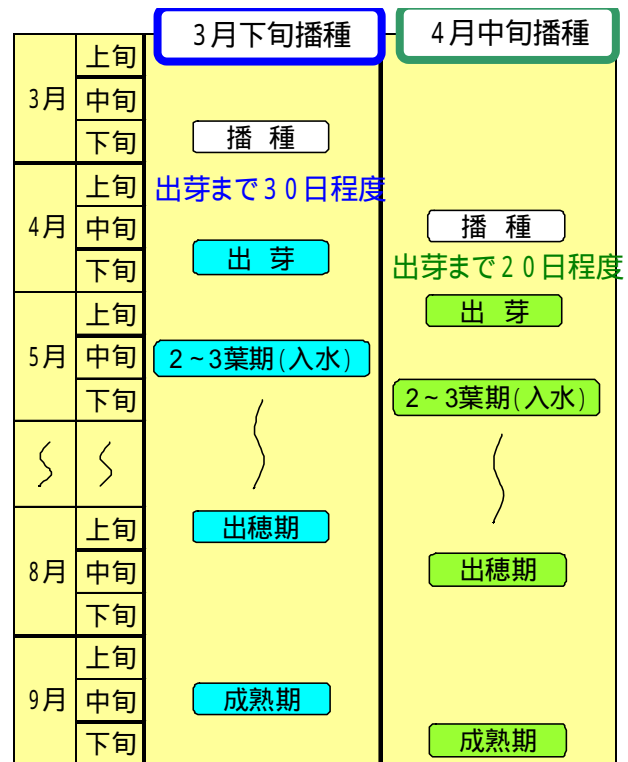
3月下旬播種と4月中旬播種の収量・品質

播種時期	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	白米タンパク質含量 (乾物%)	(注1)試験年次:平成20年、試験圃場:水戸市田谷町 (注2)播種量はいずれも6kg/10a、施肥量は3月下旬播種で10%減肥、4月中旬播種で30%減肥
3月26日	622	23.2	6.5	
4月16日	608	23.3	6.4	

2. 3月下旬に播種することで播種作業の競合を回避できます

3月下旬に播種することで、播種作業を分散でき、作付面積が拡大できます。

3月下旬播種は4月中旬播種と比べて生育ステージが早まるので、生育に合わせた管理作業を行うことが大切です。



H19年5月14日の生育状況(上:3月下旬播種、下:4月中旬播種)

水戸市における生育ステージ

問い合わせ先：農業研究所作物研究室

TEL:029 - 239 - 7212